

会 議 録

会議の名称	令和3年度所沢市自立支援協議会 第2回定例会
開催日時	令和4年2月17日（木） 午前10時から11時15分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室3・4号
出席者の氏名	<p>会 長 鈴木 喜代子</p> <p>委 員 綾部 美由紀、野崎 裕子、若林 耕司、          豊田 淳一、櫻場 敬子、青木 咲奈枝、          大門 竜司、栗原 理枝子、小野 友佳、          萩原 美紀、岩田 無為、守谷 実和子、          宮武 奈津、横須賀 邦子、駒井 美奈子、          鈴木 恭子、仲 重夫、小内 正秋、          松本 弘、田邊 純子、鈴木 浩司          オブザーバー 後呂 由紀子、住田 雄都</p>
欠席者の氏名	古川 理代、古谷野 恒男、田島 誠
議事	<p>1 令和3年度上半期各部会活動報告について</p> <p>2 令和3年度上半期所沢市相談支援事業業務委託事業報告          について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 所沢市自立支援協議会委員名簿</li> <li>・ 資料1 令和3年度所沢市自立支援協議会              上半期各部会活動報告書</li> <li>・ 資料2 令和3年度所沢市相談支援事業業務              委託事業報告（上半期）</li> </ul>
担当部課名	<p>障害福祉課 齊藤課長、井上主査、鈴木主査、山田主任</p> <p>こども福祉課 宮武主査</p> <p>保健センター健康管理課 小野寺副主幹</p> <p>（事務局）福祉部障害福祉課 04-2998-9116</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	開会
事務局（市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>課長あいさつ</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長あいさつ</li> <li>傍聴希望者数の確認。（傍聴希望者2名）</li> </ul>
	1 令和3年度上半期各部会活動報告について
委員 （さぼっと）	<p><b>こども部会 令和3年度上半期活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを「事業の役割や取組を知り、連携に繋げる」とし、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ実施。</li> <li>4月、5月の定例会中止、6月に第1回定例会を実施。</li> <li>「トライアングルプロジェクト」の報告と今年度の取組について共有した。</li> <li>学校関係者を中心に放課後等デイサービス事業所見学会実施。今後は計画と周知スケジュールを早い段階で行う。</li> <li>9月は緊急事態宣言により定例会の内容を変更し、今後のこども部会運営についての協議を実施。その中で児童に関わる事業の理解に向け、今後の部会の運営方向を確認。</li> </ul>
委員 （どんぐり）	<p><b>こころ部会 令和3年度上半期活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上半期の部会を5回予定していたが、2回中止。</li> <li>少人数の委員会と多人数の全体会を、月ごと交互に行い、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」についての協議体として、委員会、全体会ともに同一のテーマで各回の協議を進めている。</li> <li>今年度より医療関係者が部会の委員に、全体会に病院関係者が出席し、医療関係とのネットワーク作りが進んだ。</li> <li>事業所間の顔の見える連携を通して、事業所職員のスキルアップと連携の強化が課題。</li> </ul>
委員 （こみゅーと）	<p><b>しごと部会 令和3年度上半期活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は就労移行支援グループと就労継続支援B型グループの2グループに分かれて活動。</li> <li>5月、8月、9月は定例会を中止。</li> <li>就労移行支援グループは利用者支援について事例検討を、就労継続B型グループは利用者同士の間関係の支援、販売促進について協議する予定だったが、8月以降は中止となったため、後半に活動していく予定。</li> <li>ぷらっとまーけっとは、こどもと福祉の未来館1Fのギャラリーで開催。出店数は減少したが4～7月まで販売を行い、一般の方に知っていただく機会にもなったので定期的に出店するメリットはあった。</li> <li>下半期は月ごと交互に部会を行う予定。</li> </ul>

<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p><b>くらし・研修部会 令和3年度上半期活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より各地域の障害福祉サービスの質の向上が必要と捉え、部会名を変更。</li> <li>・「第1回グループホーム連絡会議」を開催、グループホーム運営や利用者支援での困り事等について意見交換した。</li> <li>・現場に携わる職員に向けた研修を企画運営するための、研修委員会を発足し、研修の企画を行った。現在は動画配信に向け準備を進めている。</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p><b>相談支援部会 令和3年度上半期活動報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の卒業生に対する計画相談支援への移行について、相談支援事業所の中立性が課題。機械的に決定せず適切に割り振りができるよう学校と調整を図る。今後、卒業生が福祉サービスに移行する場合、相談支援事業所との関わりのプロセスをきちんと模索していきたい。</li> <li>・新たな試みとして「おひとりさま事業所相談会」を開催。相談支援専門員が1人で運営している相談支援事業所ならではの悩みや課題を抽出することが出来た。今後フォローアップ研修も予定、相談支援体制の強化を図っていく。</li> </ul>
<p></p>	<p>質疑応答・意見交換</p>
<p>委員</p>	<p>相談支援従事者研修(初任者研修)やサービス管理者研修を県に申込みしても受講ができない。一人事業所も多く、色々な事情で欠員になる場合もある。事業所が資格所持者を増やす努力をしても県の研修が受けられない実態がある。県の研修と同等の資格を所持できる様な研修を市で開催できないか。市の研修なら多くの方が受講でき、一般職員のスキルアップや一人事業所の相談先にもなるのではないかな。</p>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>くらし・研修部会で検討している研修は、現場が人事異動等により職員の質の担保がされないのが課題と考えるため、ベースとして利用者の権利擁護や障害者支援の価値的な支援を底上げができる研修を繰り返し行うことを企画している。</p>
<p>事務局(市)</p>	<p>市も県の研修を受講できないことに危機感を感じている。毎年、県に要望はしているし今年もするが、市としてどのような形で研修をすれば同等の資格が取れるのか、考える必要があると思う。来年度以降の課題とさせていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>長年に渡り、市内の相談支援事業所共通の悩み事だと思う。私が所属している法人でも何年も連続で落ちている人がいる。すぐに変化があることは難しいかもしれないが、自立支援協議会の定例会で委員から意見が出たことに大きな意味がある。来年度以降の引き続きの課題として、皆さんの現場の意見等をお寄せいただければと考える。</p>

委員	放課後等デイサービスの施設見学の話があったが、色々な施設や事業所に見学に行くことで、困りごとや気づくことがあると思うので、今後開催される際は、ぜひ他部会の委員にも機会を与えていただきたい。
会長	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、人数を制限して開催せざるを得なかった。しかし、多くの方が参加できるように工夫することで行えればと思う。お互いを知り、他分野の障害理解が大事と考える。
	2 令和3年度上半期所沢市相談支援事業業務委託事業報告について
委員 (さぼっと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> <li>・ 全体の相談件数は前年度同期と比べ大幅な変化はないが、内訳では訪問、外来での相談件数が増加。委託相談件数は前年度同期と比べて32件の減少。新規の傾向は知的障害の方や精神障害の方を中心に相談がある。相談経路は行政や他機関からと多岐にわたり、幅広く相談を受けている。</li> <li>・ 専門的な知識を要するケースは、入退院に関わるケースの中で、医療ソーシャルワーカー等の医療との連携や以前虐待を受けた児童や要保護児童対策協議会の対象ケース等、多機関による支援が継続的に必要な相談に対応している。また同居家族の高齢化に伴う、地域包括支援センターなど介護保険サービスとの連携や、成年後見制度の申し立てに向けての支援を行うケースが増えている。</li> <li>・ 機能強化学業では、不定期で相談支援事業所の相談支援専門員へのスーパーバイズを行っている。</li> <li>・ 障害者虐待防止センターとしては、上半期は虐待対通報事1例あり。継続ケースは7件。</li> </ul>
委員 (どんぐり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> <li>・ 上半期の集計では前年度の件数に比べ増加しているが、一昨年度と比較すると同程度の件数。内訳は引き続き電話相談の割合が多い傾向が続いている。</li> <li>・ 委託相談では、関係機関との繋がりが乏しいなどの状況のある、主に精神障害領域の対象者へのフォローを継続している。本人の状態により相談も途切れがち、状態悪化時に集中的に関わることで短期間に件数を多く占めるなど、精神障害に特徴的な傾向が見られている。いくつかのケースについては福祉サービスに繋がられたものがあり、それまでとは違ったアプローチでの関りになる事例もある。</li> <li>・ 継続した関わりの中で支援関係を破綻させず、各関係機関の機能を考え、必要な連携を求めている支援を心掛けたい。</li> </ul>

<p>委員 (こみゅーと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> <li>・ 相談件数は微増。委託相談利用者数はサービス利用を開始し、計画相談の契約をした利用者があるため減少。</li> <li>・ 引越等の住居入居の支援や余暇支援不足がある一方で、グループホーム等地域のサービスが増える中での支援の課題に向き合うことが多くあった。また、家族の高齢化による生活全般の課題、児童相談所が間に入るような家族で問題を抱えたケース、万引き等で警察が介入するケースも多く、様々な機関と連携して対応することも増えている。</li> <li>・ 新型コロナウイルス関連で、在宅の知的障害の方が新型コロナウイルスの予防接種を受けることが出来ないとの相談や感染予防で通所施設が休所になり自宅の外に出ることが出来なくなってしまった方の相談も受けている。</li> <li>・ 機能強化事業では、事業所へのフォローとして相談支援事業所とミーティングを行った。1人事業所が多く、不明点や困ったケースへの対応など意見交換が行われた。相談支援事業所の横の繋がりを作ることで、困ったときお互いに相談できる関係、事業所間の連携につながると感じた。</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数は資料のとおり。</li> <li>・ 総合的、専門的相談支援では、相談件数が昨年度と比較すると増加。傾向としては発達障害や軽度知的障害、難病患者の方からの相談が年々増加。また精神障害者の方は診断がはっきりしない人や二次的な疾患として診断を受けている人からの相談が増加。相談経路が多岐に渡り、総合的な相談窓口としての機能が強くなっている。18歳未満の方の相談は特別支援学校以外の小中学校や、障害児通所支援事業所の職員などからの相談が増加。多くは行動障害を伴う軽度の発達障害やグレーゾーンのこどもに関する相談や保護者、教員などが対応に行き詰っているケースが多い。</li> <li>・ 市内の相談支援体制整備では、相談支援部会で相談支援専門員が一人で運営している相談支援事業所に焦点を当て、課題抽出やフォローアップを行ってきた。また、計画相談支援を実施している指定特定相談支援事業所について、事業継続が困難になり閉所や休所になってしまう事業所があり、利用者の障害福祉サービスの利用継続に影響がないよう、他の事業所に対してケースの振り分けを行なった。計画相談支援については質と量を担保していくために新規の相談支援事業所の開設に向けた働きかけを行ってきたが、今後は事業所が安定して事業運営をしていけるような支援と、それも踏まえた開拓について検討していく必要がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行、地域定着では、精神科病院から退院に向けての地域移行に関する相談が7件。また、措置で障害者支援施設を短期入所している軽度知的障害者について、毎月施設を訪問し本人の意向を確認しながら将来的な地域移行に向け検討を行っている。その他、秩父学園に入所している障害児について18歳到達後の生活に場について検討するための支援会議に参加している。</li> <li>・権利擁護、虐待防止では、上半期で新規虐待の通報は19件。家族間不和から暴力事件に発展するなど、緊急的な支援が必要な多くは突発的な衝突が原因であり、虐待通報の時点で既に問題が解決していることが多いため、コアメンバー会議で状況確認をして対応を終了している。施設従事者等による虐待は、グループホーム、障害者支援施設など生活の場で発生することが多いが、放課後等デイサービスや生活介護事業所の職員による利用者への虐待通報も受け付けている。全体的にサービスの質の課題があると考えます。</li> <li>・地域生活支援拠点 緊急相談支援では、緊急に処遇の検討や対応が必要な相談について3件支援を行なった。同居家族の体調不良や入院等により障害者本人の緊急的な処遇を検討する必要があるケースや、ネグレクトにより障害者本人の健康状態に影響があったため、緊急的に短期入所の利用調整を実施したケースがあった。</li> </ul>
	<p>質疑応答・意見交換</p>
<p>委員</p>	<p>協議会の役割として何をすべきか。狭間に落ちている課題を抽出して解決方法を皆で検討することが重要。粗暴行為の話もあったが、私の事業所でも課題を抱えている。そのような問題に対して報告で終えるのではなく、市としてどのようなシステムをもって解決していくのか考えなくてはならない。相談支援の中で未解決のもの、困っている問題を抽出してもらえると今後検討する上で助かる。できたことではなく、問題があることを次回報告いただくことを提案したい。</p>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>おっしゃる通りだと思う。各事業所で解決できないことは地域課題として抽出するべきで、そのような課題を協議会で具体的に協議していけるような形にしていきたい。今回の報告も全てがうまくいったケースではないが、次回以降、問題点も報告の中でできるよう実務者会議等で確認していきたい。</p>
<p>事務局（市）</p>	<p>粗暴行為の関係で虐待が増えているとの報告があったが、市も増えていると感じる。ネグレクトや養護環境が良くないと相談を受ける中で、早々にコアメンバー会議を開き、虐待の芽が大きくなる前に対応するように心がけている。</p>

会 長	<p>虐待対応については、非常に見えにくい部分ではあるが、実務者会議では通報内容、コアメンバー会議の結果、その後の経過などは逐次、報告と情報共有を行っている。虐待件数の増加は憂慮すべきものであるが、案件がきちんとあがってくるようになったことについては、良いと捉えている。</p> <p>定例会での報告の仕方については、現在の報告書をベースとして生かしつつも、特徴的な事例や傾向などを委員の皆様にも具体的にお伝えできるような報告の方法について次年度以降、検討していければ良いと考える。</p>
委 員	<p>特別支援学校以外の小中学校からの相談が増えたところでは、複雑なケースが小中学校の児童生徒にもいるため、相談が増えていることは良いことだと思う。持ち帰って校長会などで報告したい。</p>
会 長	<p>学校関係との連携は以前より、こども部会の課題である。先日の実務者会議でトライアングルプロジェクトの成果を確認したところ、学校の中で福祉関係者も交えた支援会議が行われたり、相談支援専門員が学校に入りやすくなったなど、確実に変わってきている。また、校長会の機会をとらえてチラシを改めて配布して説明させていただくことで学校との連携をさらに図っていくと確認した。</p> <p>また、8050 問題や多問題家族を解決するときに重層的相談体制整備事業など横断的に関係者が枠を超えて会することができる会議体が必要だと思う。様々な分野の方と必要な時に速やかに地域の中で会議が開催できるような方策が今後できればいいと思う。</p>
委 員	<p>障害サービスに結びつかない家族がいると聞き、地域にいる民生委員と地区ごとのケースワーカーとの結びつきがあるとよいと思う。</p>
会 長	<p>民生委員からも地域の見守り活動する中で、個別の障害の方の対応について民生委員からも相談を受けている。本協議会の委員にも民生委員がいらっしゃるので、協力体制を敷くことができるか、今後、力になっていただけるような方向で話ができたらと思う。</p>
会 長	<p>本日の議題は全て終了いたしました。 進行を事務局にお返しします。</p>
	<p>閉会</p>